

## 来年度の取組について

### 1. 震災記念公園専門部会における来年度の取組(予定)

- 中心拠点公園の具体内容の検討
  - 校区座談会では詰めることができなかった中心拠点公園のあり方について、役場新庁舎の議論と連携しながら、さらに具体化していく。特に、震災記念公園の取組み目標としている「いのちの記憶」の継承方法について検討する。
- 各校区の活動の“場”づくり支援
  - 活動団体と協議しながら、「記憶の継承」で“まちづくり”をする“場”についての意識の醸成を図ることで、拠点のあり方を具体化していく。また、活動が具体化したところから、拠点の整備に取り組んでいく。
- 校区外や町外からの来訪者に向けた“受入拠点”としてのあり方の検討
  - 「校区での取組の拠点」としての具体化を基本とするが、拠点によっては、校区外や町外から来訪された際の「受入拠点」としてのあり方も併せて検討していく。

### 2. 震災遺構保存・活用専門部会における来年度の取組(予定)

- 国天然記念物「布田川断層帯」の保存・活用計画策定に伴い、「震災遺構保存・活用専門部会」において基本方針を共有しておく。
- 個別の震災遺構の保存・活用方法について、WG を設け、①地域らしさの継承、②学術的な価値、などについて検討する。
- 住民による震災遺構の保存と活用を促進するため、「震災遺構よろず相談会」を実施する。
- 住民と行政が協働してつくりあげる「益城町アーカイブ」の保存と活用を推進する。(震災記念公園専門部会・防災教育専門部会と連携)
- まちづくり協議会などと連携し、保存・活用方法を含めたアーキビスト養成を行う。(〃)
- 空間整備や担い手など主体の決まった震災遺構の保存・活用を図る。(〃)

### 3. 防災教育専門部会における来年度の取組(予定)

- 震災遺構の保存・活用専門部会、震災記念公園専門部会との連携を図る。
  - 合同専門部会で、情報共有を図り方向性を統一する。
- 防災教育マトリクス表を完成させる。
  - 地域(校区・地区)、受講者(児童・生徒・一般)別の防災教育プログラムを作成する。
  - 学ぶ人と教える人、暗黙知と形式知のサイクルを構築する。
  - 益城町民が益城で学ぶ、益城町民が町外で学ぶ、町外の人が益城で学ぶ仕組みを構築する。(修学旅行や教育旅行等に活用)
- 小・中学校における防災教育の授業化を要請する。
  - 一部の小・中学校が実施している防災教育プログラムを、町内すべての小・中学校において実施する。
  - 町内小・中学校の教職員に対し、防災教育プログラムの内容を周知する。

- 自主防災組織の設立を支援する。
  - 校区単位及び地区単位の自主防災組織を設立することで、組織単位の多様化が図られる。双方のメリット・デメリットを精査したうえで、地域の実情に即した自主防災組織の設立支援を実施する。
  - 設立にあたって、民間企業等に協力を要請するなど、地域住民の負担軽減を図り、防災教育を含めた活動の継続性に配慮する。
- 防災訓練や防災講演会、勉強会の実施や啓発活動を行う。
  - 町や地域のイベントにあわせて実施し、地域住民の負担軽減に努めたうえで、継続性のある訓練等を実施する。
  - 町内外を問わず開催される防災イベントに参加を呼びかけ、住民の防災意識向上を図る。